

1. **すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。」(12:23)**
 - a. もし私があなたに、「私が栄光を受ける時が来た」と言ったらどんなことを想像するだろうか？私がパレードの真ん中に立ち、あるいは新車や豪邸から出てきて、この世が望むあらゆるすばらしいものに囲まれている姿が浮かぶだろうか？現に多くの人が、クリスチャンになるとはそのようなものを神様が手に入れさせてくれることだと考えている。
 - b. イエスは「時が来た」とおっしゃるが、27節ではその時が来たために「心が騒いでいる」とおっしゃっている。永遠の栄光とこの地上での栄光とを混同してはならない。イエスがおっしゃったのはこの地での栄光ではなく永遠の栄光のことで、その結果は偽の証言をされ、拒否され（最も近くにいた人たちからも）、十字架にかけられることであった。イエスが「わたしが栄光を受ける時が来た」とおっしゃった時、誰がこのようなことを想像しただろうか。
 - c. あなたは永遠の栄光を受けたいと思いますか？お答えいただく前に永遠の栄光について説明しよう。それは一言でいうと私たちの人生を通して神の栄光を現す（28節）ことである。その代わりに必ずと言ってよいほど、私たちは次の人生で神からの栄光を受ける。つまり、この地での栄光を追求する代わりに、永遠の世界で明らかにされる栄光を待ち望むのである。

2. **「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」(12:24)**
 - a. イエスは、栄光への道とは自我に死ぬこと、つまり自分の野心、自己防衛、自分の好みなどを自己犠牲に代えることである、と明確にされる。この後でイエスは十字架によって死なれると預言されるが、人々はイエスの栄光というのはイスラエルの王、世界の王として君臨しこの地上で永遠に治めることだと考えていたので、十字架の死については理解していなかった。
 - b. 最終的にはイエスは全地の王となるが、そのためにはまず死んで豊かな実を結ぶ必要があった。あなたは豊かな実を結ぶための死、というものに直面したことがありますか？
 - c. イエスが十字架を負う（文字通りの死）ことによって結んだ（あるいは結ぶ）実というのは、人類の救い、裁きを免れる保証、「この世の君/統治者」をくつがえすこと、そして聖霊を授かることである。

3. **「自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。」(12:25-26)**
 - a. 私たちが生きる世の中はますます自己中心で、孤立し、せっかちになっており、これはすべてこの世の生き方を愛する罪の結果である。自分自身を健全に愛することに問題はないが、これから来る世界ではなく今の世での成功を求めるとその自己愛はゆがみ堕落していく。
 - b. イエスはこの世のいのちを憎むようにおっしゃった。それはどういう意味だろうか？それは積極的、能動的に、そして思慮深く聖霊に導かれながらこの世の報酬や喜びではなく永遠の報酬を求めていくことであろう。
 - c. イエスは「わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい」と宣言される。イエスに従うことは時には十字架を背負うことも要求される。しかし、イエスに従ってさえいれば、イエスはこの世にはない平安と喜びをくださる。つまりこの世でどんな状況であろうと、私たちが神に栄光を帰していれば神の平安と喜びが与えられ、時が来れば神が私たちに栄光を与えてくださるのである。